

旧流山村の周辺部村々の庚申塔関連話 (学習報告)

鱒ヶ崎村. 木村

ダイジェスト版

塩崎 恒一

(1) 草分け伝承 村の成立

鱒ヶ崎に草分け五軒衆と呼ばれる「渡辺, 宇佐美, 鈴木, 山崎」各家と不詳一家の記述がある。東福寺にある庚申塔には各家の名前が刻まれており関連のある末裔の方々と考えられる。鱒ヶ崎村の成立について、東福寺の開山が弘仁5年(814)又、鱒ヶ崎伝説も残されていることから此の頃かと考えられるが、五軒衆との関連、村の成立に繋がる情報には至らなかった。天正19年(1591)家康が江戸城に入城した頃、東福寺は家康より30石の御朱印地を拝領している。市域では鱒ヶ崎伝説にもある通り良田に恵まれた豊かな村に発展していた事が伺える。

木村では、近年都市開発事業による開発の際土中から慶安4年(1651)の銘のある十三仏庚申塔が発見され観音寺に祀られている。現在確認されている江戸期の庚申塔では最も古いものとされている。この時期利根川の支流として江戸川が現在の流れになった寛永18年(1641)とも重なり木村の成立の頃と考えられる。

(2) 村の区分 「坪」

律令時代、地方の編成単位として国, 郡, 里(郷)制があった。一つの里(50戸)で集落が形成されていた。「坪」は里の中にあつて組と同様の組織として呼称されていた。(時代や地域で様々に変化)

鱒ヶ崎地区: 中島, 根方, 中通, 西組, 根郷前, の五組

木 地区: 船戸, 中通, 西通り, 膝丸 の四組 *木村は村の成立が江戸期であり、律令制の条里の概念

(3) つき合いの文化

念と異なり後付と考えられる。

つき合いの種類として、葬式, 新盆, オビシヤ, 祝言, 建前, 供養, 各々の講, 等々あり通常は「坪」単位, 道普請, 鎮守の祭礼などは村全戸の参加。

鱒ヶ崎地区の講: 念仏講 雷神社のオビシヤ 現在も続いている講。複数の講があった

木 地区の講: 香取講(代参) 香取講(月1回)廻り宿 が昭和の末~平成に廃止。

(4) 村の戸数, 人口(江戸期) 石高の検証

	大正2年(市史)	大正5年(町誌)	明治8年(県公布)	聞き取	天保郷帳	元禄郷長
鱒ヶ崎	84戸530人	84戸	67戸	76戸	624石	542石
木	60戸411人	58戸	58戸	53戸	300石	297石

①江戸時代の村々の人口推移を検証する目的で石高推移, 戸数, 人別帳等調べたが、データのバラツキ, 又能力不足も重なり合理的な根拠を示す資料が確認できず当初の目的断念。

江戸期の流山について多くの資料に接する機会を得、今後とも継続して学習していきたい。

(5) 庚申塔

*貞享3年(1686)東福寺青面金剛立像これより文字等含め庚申信仰の主導は青面金剛。

*文化8年(1811), 天保10年(1839)木. 香取神社の庚申等に, 船戸講中14名が刻まれている。船戸18戸「坪」単位の建立か。

*文化11年(1814)文字塔主体「庚申」が祈願の対象。寺請制度の浸透。

以上

①貞享3年



②文化8年



③天保10年



④文化11年



- 【今回参考図書等】
- ・流山市史「民俗編」
 - ・流山市史「通史編Ⅰ」
 - ・「流山の庚申塔探訪」
 - ・流山市史研究「三号(近世流山村の成立について)(流山村の商業)」
 - ・論文「庚申信仰について」
- *会内限り(田村哲三著)